



国際会長 (IP) Joan Wilson (カナダ)

“Our Future Begins Today”

「私たちの未来は、今日より始まる」

アジア地域会長 (AP) Tung Ming Hsiao (台湾)

“Through Love, Serve”

「愛をもって奉仕をしよう」

東日本区理事 (RD) 利根川 恵子 (川越)

「明日に向かって、今日動こう」

“For the Future, Act Today!”

湘南・沖縄部部長 (DG) 若木 一美 (横浜とつか)

「あなたが退会しない理由は？」 ~明るく・楽しく・元気よく~

横浜クラブ会長 (CP) 金子 功

「YMCA とともに！」

“Together, with YMCA!”

会長 金子 功
副会長 舟田 正夫
書記 伊藤 誠彦
会計 古田 和彦
直前会長 松島 美一

監事 松島 美一
ブリテン 高田 一彦
担当主事 青木 一弘

〈今月の聖句〉

押川 幸男

シメオンは幼子を腕に抱き、神をたたえて言った。
「主よ、今こそあなたは、お言葉どおりこの僕を安らかに去らせてくださいます。わたしはこの目であなたの救いを見たからです。」

(ルカによる福音書2章28～30節)

今月のひとこと

「コンサート」

今村 讀

今年の関内ホールでのコンサートは11月12日「第19回
ハイアン&フラ+デキシーランドジャズを楽しむ集い」のタイトルで開催した。

絶好の秋日和に恵まれ毎年の事ながら14時開場に12時頃
から長蛇の列が関内ホールを取り巻きその整理が大変であるがこれも嬉しい悲鳴である。

超満員のお客様をお迎えして開演。第1部は五つのフラチームによる華麗なるフラダンスの競演、第2部は日本一を誇る
蘭田憲一とデキシーキングスの迫力あるデキシーランドジャズ、第3部は我がレイキングスの質の高いハイアンそし



シルバを踊る今村ワイス



デキシーランドジャズ演奏

て今や名物となっているコロへ今村の軽快なジルバと息もつかせぬ3時間のパフ

オーマンスであった。充実した内容は皆様に充分御満足いただけたものと確信している。ワイズメンの方も東京世田谷・

東京西・東京たんぽぽ・東京むかで・横浜とつか・横浜からは大勢の方々に



フラダンスの競演



コロへ今村とレイキングスの演奏

くつもりである。

(写真提供は、横浜YMCA池田直子さん)

さんがさんか出席され感謝。気力・体力が若さを保っている限り、続けてい

<2016年11月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F	
19名 (功労 会員1 名を含 む)	メン 12名 メネット 0名 コメット 0名 ビジター 0名 ゲスト 1名 合計 13名	67 % (メーキャップ 名を含む) 前月修正出席 率	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円	

<12月の行事予定>

強調月間【EMC/MC】

日	曜	時間	行事内容	場所
6	火	19:00	第75回Y-Y協議会	中央Y
8	木	17:00	横浜クラブ第二例会	広東飯店
8	木	18:00	横浜クラブ第一例会 兼忘年会	広東飯店
15	木	18:00	横浜Yクリスマス会	とつかY

<11月例会報告>

高田 一彦

日時：11月10日（木）18：30～20：30

場所：横浜中央YMCA 501号室

出席者：伊藤、今村、遠藤、大江、大高、金子、古賀、斉藤、高田、野村、平岡、古田

ゲスト：瀬谷智明氏（卓話者）

齋藤ワイズの司会により、金子会長の点鐘で11月例会が始まったが、会長挨拶では、本日11月10日は奇しくもワイズデーにあたり、日本の大阪ワイズメンズクラブが初めて国際協会に加盟した1928年11月10日を記念して定められた日であると披露された。

ワイズソング、ワイズの信条に続いての今月の聖句では、今村ワイズより、ワイズメンズワールド（日本語ダイジェスト版No.11 1999-2000）ビエット・ハイン（デンマークの詩人であり「超楕円」の発明者）による「富の勘定」「まだ知恵のない者はいくら得たかで富を勘定し、神の恩恵を受けて生かされているあなた方はいくら与えたかで富を勘定する。」がこれぞキリスト教の原点を述べていると披露された。食事後の本日の卓話、会長肝いりのYMCA理解として「横浜YMCAが取り組む高齢者事業について」と題して、横浜Y



卓話中の瀬谷智明氏

MC A高齢者事業部長の瀬谷智明（のりあき）氏よりの卓話となった。開口一番、名前の由来と読みにくさについての話があった。国の社会福祉行政に対する変遷から、横浜Y

Aが高齢者事業に取り組むに至るまでの経緯を自分のYMCA歴と共に話され、まさにYMCAが持つDNAがマッチした事業であることが語られた。

現在横浜YMCAとしては、大和YMCAライフサポートセンター、YMCAライフサポートセンター関内、YMCAライフサポートセンター鶴見と、横浜市指定管理施設として市より受託している鶴見中央地域ケアプラザ、生麦地域ケアプラザ、東本郷地域ケアプラザの6拠点が存在し、介護保険事業を運営の中心に据えながら、高齢者のみならず、子育て支援、障がい者支援、地域活動などを実施し、地域の福祉保健活動の拠点として、YMCAの願いの実現に向けて、地域の人々と共に様々な活動を展開しているとのことであった。

金子会長からのビジネスでは、十勝ワイズポテトの横浜訓盲院、日本水上学園への配送、横浜クラブ専用キャビネットの設置完了、11月23日の中央Yのウェルカムフェスタ、12月例会は廣東飯店での忘年会を兼ねることが述べられた。バザーの準備（値付け・商品陳列等）として19日（土）の2時から行うので多くの支援をとの掛け声に、10人余のメンバーが集まることになった。26日には次々期部長選考委員会と、第2回湘南・沖縄部評議会が開催される等の行事予定が発表された。この日のロバ献金は11,000円であった。

「第2回湘南・沖縄部評議会報告」

金子 功

日時：11月26日（土）15：00～17：00

場所：横浜中央YMCA 608号室

定足数を確認後、加藤部書記の司会のもと、若木部長による開会点鐘、ワイズソング、ワイズの信条唱和、井上部担当主事の聖書朗読、祈禱によって開会された。聖句は今年度のYMCAの基本聖句「ともし火をともして升の下に置く者はいない。・・・」（マタイによる福音書5章15節～16節）であった。

議事は若木部長の司会により以下の報告事項から始められた。

1. 若木部長による「第2回東日本区役員会」報告。7頁にわたる区役員会議事録から東京目黒クラブの解散、国際会長の投票等重要案件が説明された。
2. 辻剛東日本区定款改訂委員会委員長より改訂作業の現状が報告された。
3. 事業主査報告の中でCS/Yサ支援金支給に関する件が報告され支給額が確認され、承認された。

各クラブ報告の後議案審議に移り以下の協議がなされた。

第1号議案：17～18年度次期部長選出に関し、部書記、会計を他クラブから選出することを条件に部長を厚木クラブから選出する可能性の再検討を要請した。

第2号議案：16～17年度次期部役員人事に関し、金子次期部長より部キャビネットの構想（書記—松島美一ワイズ、会計—伊藤誠彦ワイズ、事業主査は適任者を勘案して他クラブに要請する）が提案され承認された。

第3号議案：部則改正について；昨年度からの懸案事項であるが部分的な見直しであることから、部書記がポイントを絞って次回役員会/評議会に提示することとした。

第4号議案：沖縄への部長公式訪問について日程（2017年2月18日～19日）、旅程（Yトラベル）が提示され現地集合が承認された。現地でのプログラムについては今後検討する。

第5号議案Y-Ys合同新年会：17年1月21日（土）、18：00～20：00、廣東飯店、参加費：5,000円、申込み締め切り；1月15日が提案され承認された。

第6号議案：17～18年度部会日程；9月16日（土）が金子次期部長から提示され承認された。最後に辻監事の講評をもって17：00に終了した。

横浜クラブからの出席者：金子、舟田。

尚評議会に先立って、部役員で次次期部長選考委員会、並びに部則検討委員会が開かれ評議会に備えた。

「中央YMCA ウェルカムフェスタ」

古田 和彦

11月23日（土・祝）午前10時から午後2時30分、横浜中央YMCA全館挙げてウェルカムフェスタ2016が行われた。横浜ワイズは例年に倣い、バザー（従来「蚤の市」といっていた）を担当。それに先立ち前週土曜日の19日午後2時から5時まで、606教室において会場の設営と値付け作業を行った。昨年よりも品薄感はあるが、卓球台や机の上にブルーシートが敷かれた売り台の上にそこそ品物を分類し、ワイワイガヤガヤ言いながら、楽しく値付けをしている。このバザーはチャリティなのだから、また、大勢の皆様の善意の献品によるものなのだから、それなりの値段にすることを心掛けた。

23日当日は午前9時に集合し、放送を通じてお祈りを共にし、10時開始まで残っていた値付けや陳列に大忙し。10時開始とともに例年通り大勢の来客があり、11時過ぎまではずっと混雑が続いた。ワイズメン・メネットたちは、品物のアピールや値段の交渉なども行い、それぞれ忙しくも楽しい一日を過ごした。11時過ぎからは交代で昼休みを取り、日本語学校の学生が販売するお国自慢の料理を食し、また、東北支援の産品や「ロバの家」のクッキーなどを買ったりして売り上げにも協力した。国際・地域協力募金となるバザーの売り上げは目標の10万円を上回り、118,535円となり、隣でYMCA職員が行ったキッズの売り上げ、32,240円を加えると150,775円となった。

後片付けもスムーズに進み、午後3時すべて終了。それにしても、準備と当日の運営にはスタッフの皆さんには大いに



手助けだった。心から感謝します。

準備を含めた参加者は、伊藤メン・メネ、遠藤、大高メン・メネ、金子メン・メネ、神村メネ、古賀、齋藤、高田メン・メネ、野村、古田、松島と連絡主事代行の平岡さんでした。

「近況報告」

押川 幸男



今年の9月、突然腰痛になり、ジムのトレーナーに相談すると、下半身の筋力がかなり落ちているとのこと。それまではウォーキングを中心に週2回程ジムに通っていたので、体調管理にはある程度安心していました。ところが、トレーナーによれば、下半身と背中筋力のある程度つけないといけないとのこと、パーソナルトレーニングを受け、生まれて初めてバーベルを挙げたり、負荷の大きいマシンを使った筋力トレーニングを始めました。それに伴い、最初は筋肉痛もありましたが、しばらくすると腰痛もなくなり以前よりは体調も良くなったように思います。60歳からは、体調管理が最重要課題だと実感しました。

さて、今年度は仕事の関係で例会にほとんど出席できず、申し訳なく思っています。今は来年度に向かって、筋トレに励んで体調を整えつつ、例会出席とワイズの方々との交わりを楽しみにしています。

「韓国フィールドトリップ」

青木 一弘

日本YMCA同盟主催の研修にて、10月下旬に韓国を訪れました。人権を守り、正義と公正を求め、対立から和解、排除から共生へと、平和な多文化共生社会の実現を使命とするYMCAの働きの重要性は増しており、その責任も大きくなっています。今回は、今に至るまで歴史的に関係の深い韓国を訪問し、日韓キリスト教及びYMCAの関係史、日韓の和解、東北アジアの平和について学ぶ機会となりました。（訪問先・韓国YMCA全国同盟、基督教大韓監理堤岩里教会、韓国基督同信教会、水原YMCAランチ、烏山統一展望台、臨津閣公園、板門店、西大門刑務所歴史館、安重根義士記念館、ソウルYMCA創立113年記念礼拝等）



私達の祖父母の時代に戦争は終わりましたが、平和な時代に育った私達は、戦争の悲惨さを知りません。しかし、今でも、地球のどこかで戦争や紛争のために苦しんでいる人々があります。この韓国フィールドトリップの中、異なる文化体験、価値観の対話こそが平和をつくりだす鍵だと改めて気づかされました。「平和」という言葉を聞くと、真っ先に私が思い浮かべる言葉は「戦争」ですが、そのような言葉が浮かぶということは、私にとって戦争が無縁でないことを表していることだと思います。

実際に、日本や韓国は過去に悲惨な戦争の現場になり、多くの一般市民が巻きこまれて犠牲になりました。現地で真実を知る度に、戦争の恐ろしさを実感しました。なぜ何の罪も無い人々が、何もかもを戦争によって失わなくてはならなかったのだろうか。こんなことが現実にあったということが受け止められません。その位、現在の私たちの生活は豊かにな

